

「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第3期）（素案）」に関する意見募集の結果について

県では、令和元年度中に「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第3期）」を策定することとしており、令和元年10月21日に当該計画（素案）を公表し、広く意見等を募集しました。

意見募集の結果及び意見等に対する県の考え方・対応をとりまとめましたので、公表します。御意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

1 意見募集の期間

令和元年10月21日（月）から令和元年11月21日（木）

2 意見等の状況

- (1) 意見書の数・・・1通
- (2) 具体的な意見の数・・・9件

3 主な意見と県の考え方・対応

番号	意見の概要	県の考え方・対応
1	<p>汽水公園案を「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第3期）」に取り入れていただきたい。</p> <p><汽水公園設置の基本構想>（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八郎湖内に遮蔽壁で仕切り、農業や飲料水、漁業などへの影響のない独立した汽水エリアを作って、ヤマトシジミの繁殖に資することによって、資源の回復や経済効果、水質浄化が期待される。 ・ 海水揚水ポンプと淡水揚水ポンプ、排水ポンプの三基を設置し、汽水濃度を調節しながら効率よく繁殖に資する。海水揚水ポンプは、防潮水門下流の海側船越水道内に設置する。淡水揚水ポンプと排水ポンプは汽水公園に隣接して設置する。 ・ 汽水公園の面積は広いほど効果が期待できるが、差し当たり50ヘクタール（250m×2000m）を提案する。 ・ 汽水公園の設置場所は、ヤマトシジミの繁殖に適した底質や深さが必要である。 ・ 汽水公園の遮蔽壁はコンクリート壁で仕切るか、鉄製の遮蔽壁や堤防構築が考えられるが、ある程度物理的な強度や恒久性が要求される。 	<p>第2期計画期間に、シジミによる八郎湖の水質改善を目的に、湖内でヤマトシジミの放流や生育の試験を行いました。十分な生存率を確保できませんでした。</p> <p>また、湖内を淡水域と汽水域に仕切るための構造体の設置には、多額の建設費と維持管理費が必要となるなど、汽水公園案の実現には多くの課題があるものと考えます。</p> <p>このことから、第3期計画においても、ヤマトシジミなどの二枚貝を湖内に定着させるための調査研究を、関係機関と連携して継続していきます。</p>
2	<p>次の八郎湖の水質改善の理念（コンセプト）を「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第3期）」に取り入れていただきたい。</p> <p>「国営の干拓事業に起因する八郎湖水質汚濁は国が主導的に解決すべきである」</p> <p>「大潟村と周辺地域との共存共栄を目指す」</p> <p>「秋田県の創生と地域活性化に資する」</p> <p>「国・県・地域市町村・地域団体の連携を推進の条件とする」</p>	<p>第3期計画でも受け継いだ八郎湖の長期ビジョン「恵みや潤いのある”わがみずうみ”」の実現に向け、国や流域市町村、地域の住民や団体等とビジョンの共有を図り、連携し、地域活性化も考慮した水質保全対策を推進します。</p>

3	<p>次の方法論を「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第3期）」に取り入れていただきたい。</p> <p>「統合的・総合的に行う」 「自然の力に寄り添って行う」</p>	<p>長期ビジョンが示す姿である「農業や漁業など湖にかかわる人々に持続的な恵みをもたらす」、「水遊びや遊漁など子どもから大人までが潤いに包まれる」、「鳥や魚や植物など多様な生き物が命を育む」を実現するため、水質保全はもとより、多様な生態系の保全、親水性の確保などについても視野に入れるとともに、できる限り自然を活用しながら、総合的かつ効果的な対策を進めます。</p>
4	<p>農業排水浄化対策の強化及び流入河川の浄化促進を「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第3期）」に取り入れていただきたい。</p> <p>流入河川の浄化促進とは、下水道等の整備と接続率の向上、流域の森林の整備等である。</p>	<p>第3期計画では、農地からの汚濁負荷の削減のため、従前の無代かき栽培等に、新しい技術を活用した無落水移植栽培を加えた水質保全型農業を推進することとしています。</p> <p>また、流入河川の水質保全に関する取組として、引き続き下水道等の普及率や接続率の向上、工場・事業場への排水規制、森林の整備等を推進し、河川に流入する汚濁負荷の削減を図ります。</p>
5	<p>浚渫の実施を「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第3期）」に取り入れていただきたい。（順位性は①が最も高く、次いで②、最後に③）</p> <p>①西部承水路、②中央幹線排水路、③馬場目川・三種川・馬踏川等の河口の堆積部</p>	<p>水質改善を目的とした浚渫については、費用と効果に課題があることから、第3期計画には盛り込まず、局所的な対策として、西部承水路での高濃度酸素水供給による底質改善を行います。</p>
6	<p>西部承水路への取水口の変更を「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第3期）」に取り入れていただきたい。</p> <p>西部承水路への取水口の変更の意図は現在南部排水機場の汚濁した水を西部承水路に送っており、そのことによって西部承水路の水質悪化とヘドロ堆積を招いている。取水口を移動し、比較的良質な水を取水、送水することによって西部承水路の浄化を促す。</p>	<p>取水口の変更については、西部承水路の流動化促進の取組の一環で、かんがい期は浜口機場を用いた東部承水路北部からの導水を優先させており、第3期計画でも引き続き取り組みます。</p>
7	<p>玉川用水、素波里ダム、米代川河口からの導水の検討を「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第3期）」に取り入れていただきたい。</p>	<p>外水の導入については、確保できる水量が限られることやアオコが発生する時期に取水場所で濁水し、導水量が不足すること、多額の建設費と維持管理費が必要になることから、実施は難しいと考えており、計画への導入は見送ります。</p>
8	<p>魚道の拡張を「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第3期）」に取り入れていただきたい。</p>	<p>防潮水門に2箇所設置されている魚道は、日常点検等の維持管理を定期的実施しており、魚類の湖と船越水道の往来に支障がないことを確認しているため、魚道の拡張については、計画への導入は見送ります。</p>
9	<p>堤防の適切な管理の徹底を「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第3期）」に取り入れていただきたい。</p>	<p>堤防の管理については、第3期計画では河川清掃等に位置づけており、流域市町村と調整しながら雑木伐採等を行います。</p>